

四 半 期 報 告 書

(第5期第2四半期) 自 2020年7月1日
至 2020年9月30日

株式会社 めぶきフィナンシャルグループ

(E30103)

第5期第2四半期（自2020年7月1日 至2020年9月30日）

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付した中間監査報告書及び四半期報告書と併せて提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

株式会社 めぶきフィナンシャルグループ

目 次

第 5 期第 2 四半期 四半期報告書

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第 1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第 2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
3 【経営上の重要な契約等】	9
第 3 【提出会社の状況】	10
1 【株式等の状況】	10
2 【役員の状況】	12
第 4 【経理の状況】	13
1 【中間連結財務諸表】	14
2 【その他】	36
3 【中間財務諸表】	37
4 【その他】	41
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	42
中間監査報告書	巻末
確認書	巻末

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年11月19日

【四半期会計期間】 第5期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 株式会社めぶきフィナンシャルグループ

【英訳名】 Mebuki Financial Group, Inc.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 笹島 律夫

【本店の所在の場所】 東京都中央区八重洲二丁目7番2号

【電話番号】 (03)3241-2501 (代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画部統括部長 小松崎 光一

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区八重洲二丁目7番2号

【電話番号】 (03)3241-2501 (代表)

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 會田 圭祐

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

当社は、特定事業会社(企業内容等の開示に関する内閣府令第17条の15第2項に規定する事業を行う会社)に該当するため、第2四半期会計期間については、中間(連結)会計期間に係る主要な経営指標等の推移を掲げております。

(1) 最近3中間連結会計期間及び最近2連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度
		中間連結 会計期間 (自2018年 4月1日 至2018年 9月30日)	中間連結 会計期間 (自2019年 4月1日 至2019年 9月30日)	中間連結 会計期間 (自2020年 4月1日 至2020年 9月30日)	2018年度 (自2018年 4月1日 至2019年 3月31日)	2019年度 (自2019年 4月1日 至2020年 3月31日)
連結経常収益	百万円	156,553	149,288	133,399	288,139	282,737
うち連結信託報酬	百万円	12	29	16	31	52
連結経常利益	百万円	39,079	31,971	31,644	69,533	53,179
親会社株主に帰属する 中間純利益	百万円	27,189	22,559	21,619	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	—	—	—	46,338	36,370
連結中間包括利益	百万円	22,600	39,985	82,062	—	—
連結包括利益	百万円	—	—	—	46,335	△20,483
連結純資産額	百万円	902,264	953,156	958,001	919,547	882,235
連結総資産額	百万円	16,999,060	17,612,201	20,967,631	17,372,575	17,804,808
1株当たり純資産額	円	768.94	812.19	825.77	783.67	760.78
1株当たり中間純利益	円	23.15	19.22	18.64	—	—
1株当たり当期純利益	円	—	—	—	39.47	31.14
潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	円	23.13	19.21	18.63	—	—
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	円	—	—	—	39.45	31.12
自己資本比率	%	5.30	5.41	4.56	5.29	4.95
営業活動による キャッシュ・フロー	百万円	195,557	338,285	2,966,538	6,087	356,104
投資活動による キャッシュ・フロー	百万円	△69,671	211,443	158,539	△211,514	176,093
財務活動による キャッシュ・フロー	百万円	△48,492	△39,693	△6,224	△54,944	△50,146
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	百万円	1,773,183	1,944,640	5,035,507	1,434,627	1,916,659
従業員数 〔外、平均臨時従業員数〕	人	6,848 〔3,806〕	6,783 〔3,675〕	6,581 〔3,541〕	6,647 〔3,824〕	6,556 〔3,622〕
信託財産額	百万円	2,670	3,826	4,582	3,134	4,077

(注) 1. 当社及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計－(中間)期末新株予約権－(中間)期末非支配株主持分)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。

3. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、該当する信託業務を営む会社は株式会社常陽銀行及び株式会社足利銀行の2行であります。

(2) 当社の最近3中間会計期間及び最近2事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次 決算年月		第3期中 2018年9月	第4期中 2019年9月	第5期中 2020年9月	第3期 2019年3月	第4期 2020年3月
営業収益	百万円	12,512	7,562	7,512	20,074	15,124
経常利益	百万円	10,859	6,158	6,070	17,110	12,445
中間純利益	百万円	11,255	6,343	6,296	—	—
当期純利益	百万円	—	—	—	17,669	12,787
資本金	百万円	117,495	117,495	117,495	117,495	117,495
発行済株式総数	千株	1,179,055	1,179,055	1,179,055	1,179,055	1,179,055
純資産額	百万円	650,993	650,922	646,912	650,954	646,913
総資産額	百万円	777,919	745,431	742,199	776,704	740,609
1株当たり配当額	円	5.50	5.50	5.50	11.00	11.00
自己資本比率	%	83.65	87.28	87.13	83.77	87.31
従業員数 〔外、平均臨時従業員数〕	人	15 〔-〕	18 〔1〕	18 〔1〕	15 〔-〕	18 〔1〕

(注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計-(中間)期末新株予約権)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

なお、現在、主要な関係会社について下記の再編を対応または予定しております。

- ・連結子会社である常陽ビジネスサービス株式会社は、2020年9月30日付で解散し、現在清算手続中であります。
- ・2020年10月1日付で当社の完全子会社である株式会社足利銀行が保有する足利信用保証株式会社の全株式を当社が現物配当により取得し、足利信用保証株式会社を当社の完全子会社化するとともに、同社の商号を「めぶき信用保証株式会社」に変更しました。
- ・2021年4月1日付で当社の完全子会社である株式会社常陽銀行が保有する株式会社常陽クレジット株式と、株式会社足利銀行が保有する株式会社あしぎんカード株式を当社が現物配当により取得し、当社の完全子会社化したうえ、株式会社常陽クレジットと株式会社あしぎんカードを合併し、存続会社の商号を「株式会社めぶきカード」に変更する予定であります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び連結子会社の「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当社グループは、銀行業務を中心とした総合金融サービスを提供しております。なお、当社グループの報告セグメントは、銀行業務のみであります。銀行業務以外の事業については重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

①金融経済環境

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の流行による経済活動自粛の影響により、個人消費や雇用、設備投資が弱い動きとなりましたが、段階的な経済活動の再開に伴い、期の後半にかけては持ち直しの動きに転じました。ただし新型コロナウイルス感染症が世界的に再拡大するなど、先行き不透明な状況が続きました。

当社グループの主要営業地盤である北関東地域においても同様の動きとなりました。

金融市場を見ると、主要国の段階的な経済活動の再開や各国政府・中央銀行による積極的な政策対応を背景に、円の対ドル相場は6月に一時1ドル・109円台まで円安ドル高が進みました。しかし、その後は新型コロナウイルス感染症の再拡大などから円高ドル安へと転じ、2020年9月末には1ドル・105円台になりました。株式市場は、景気支援策や段階的な経済活動の再開、世界的な株高の流れを受け、日経平均株価は総じて上昇基調が続き、2020年9月末は23,185円で取引を終了しました。

国内金利は、日本銀行の金融緩和政策を受けて短期金利はマイナス圏で小幅な動きが続きました。一方の長期金利は、段階的な経済活動再開による景気回復期待や海外長期金利の上昇、また政府の財政出動に伴う国債需給悪化懸念などから、緩やかな上昇が続きました。

このような環境のもと、当第2四半期連結累計期間における経営成績、財政状態等は以下のとおりとなりました。

②経営成績

当社グループにおける当第2四半期連結累計期間の損益の状況は以下のとおりです。

資金利益は、投信解約損益の減少や国債償還による有価証券利息配当金の減少を主因に、前年同期比30億3百万円（3.9%）の減少となる738億89百万円となりました。役員取引等利益は、新型コロナウイルス感染拡大等を踏まえ、取引先の資金繰り支援を最優先に取り組んだことや、一部で外訪活動を自粛したことなどから、前年同期比7億95百万円（3.9%）の減少となる191億78百万円となりました。また、その他業務利益は、前年同期に実施した有価証券ポートフォリオの入替に伴う外国債券の売却益の剥落等により前年同期比13億14百万円減少となる△6億50百万円となりました。これらの結果、連結粗利益は前年同期比48億37百万円（4.8%）の減少となる938億88百万円となりました。

経常利益は、与信関係費用が前年同期比6億80百万円減少し、また、株式等関係損益が政策保有株式の縮減や株価回復等を踏まえたETF等の売却を主因に前年同期比12億65百万円増加したこと等により、前年同期比3億26百万円（1.0%）減少となる316億44百万円となりました。

以上により、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比9億40百万円（4.1%）の減少となる216億19百万円となりました。

(単位：百万円)

区分	前第2四半期連結累計期間 (A)	当第2四半期連結累計期間 (B)	増減 (B-A)
連結粗利益 (注)	98,725	93,888	△4,837
資金利益	76,892	73,889	△3,003
役員取引等利益	19,974	19,178	△795
特定取引利益	1,195	1,470	275
その他業務利益	663	△650	△1,314
営業経費	60,378	58,589	△1,788
与信関係費用	10,342	9,662	△680
貸出金償却	5,769	2,113	△3,656
個別貸倒引当金繰入額	5,015	7,191	2,175
一般貸倒引当金繰入額	78	768	690
その他の与信関係費用	△520	△410	110
株式等関係損益	3,383	4,648	1,265
その他	583	1,359	776
経常利益	31,971	31,644	△326
特別損益	△115	△700	△584
税金等調整前中間純利益	31,855	30,944	△911
法人税、住民税及び事業税	11,182	11,384	202
法人税等調整額	△1,886	△2,059	△172
中間純利益	22,559	21,619	△940
親会社株主に帰属する中間純利益	22,559	21,619	△940

(注) 連結粗利益 = (資金運用収益 - (資金調達費用 - 金銭の信託運用見合費用)) + (役員取引等収益 + 信託報酬 - 役員取引等費用) + (特定取引収益 - 特定取引費用) + (その他業務収益 - その他業務費用)

③財政状態

当第2四半期連結会計期間末の預金等（譲渡性預金を含む）の残高は、法人預金・個人預金を中心に前連結会計年度末比8,331億円（5.5%）の増加となる15兆8,729億円（うち預金は15兆5,591億円）となりました。

また、貸出金の残高は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大等を踏まえ、お客さまの資金ニーズに積極的に対応したこと等から、前連結会計年度末比1,220億円（1.0%）の増加となる、11兆4,646億円となりました。

一方、有価証券の残高は、国債償還や相場動向に応じたポートフォリオの入替等により、前連結会計年度末比645億円の減少となる4兆116億円となりました。

(単位：百万円)

主要勘定の残高	前連結会計年度末 (A)	当第2四半期連結会計期間末 (B)	増減 (B-A)
預金等	15,039,790	15,872,926	833,136
うち預金	14,756,658	15,559,168	802,509
貸出金	11,342,541	11,464,617	122,076
有価証券	4,076,146	4,011,610	△64,535

なお、当第2四半期連結会計期間末における連結ベースのリスク管理債権残高は、前連結会計年度末比54億円増加となる1,738億円となりました。

(単位：百万円)

リスク管理債権残高	前連結会計年度末 (A)	当第2四半期連結会計期間末 (B)	増減 (B-A)
リスク管理債権残高合計	168,405	173,889	5,484
破綻先債権額	2,279	2,197	△81
延滞債権額	138,147	140,901	2,754
3ヵ月以上延滞債権額	391	1,606	1,214
貸出条件緩和債権額	27,586	29,183	1,597

(参考)

国内・国際業務部門別収支

資金運用収支は、738億89百万円となりました。役員取引等収支は、191億62百万円となりました。特定取引収支は、14億70百万円となりました。その他業務収支は、△6億50百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第2四半期連結累計期間	72,968	3,910	13	76,892
	当第2四半期連結累計期間	67,412	6,463	13	73,889
うち資金運用収益	前第2四半期連結累計期間	73,968	11,973	△401	85,540
	当第2四半期連結累計期間	68,465	9,587	△394	77,658
うち資金調達費用	前第2四半期連結累計期間	999	8,062	△414	8,647
	当第2四半期連結累計期間	1,053	3,124	△408	3,769
信託報酬	前第2四半期連結累計期間	29	—	—	29
	当第2四半期連結累計期間	16	—	—	16
役員取引等収支	前第2四半期連結累計期間	21,891	53	△2,000	19,944
	当第2四半期連結累計期間	20,798	12	△1,648	19,162
うち役員取引等収益	前第2四半期連結累計期間	29,278	256	△2,926	26,608
	当第2四半期連結累計期間	27,802	183	△2,563	25,421
うち役員取引等費用	前第2四半期連結累計期間	7,387	202	△926	6,663
	当第2四半期連結累計期間	7,003	171	△915	6,259
特定取引収支	前第2四半期連結累計期間	116	1,079	—	1,195
	当第2四半期連結累計期間	149	1,321	—	1,470
うち特定取引収益	前第2四半期連結累計期間	116	1,079	—	1,195
	当第2四半期連結累計期間	149	1,321	—	1,470
うち特定取引費用	前第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
その他業務収支	前第2四半期連結累計期間	△2,743	3,517	△111	663
	当第2四半期連結累計期間	△1,216	683	△117	△650
うちその他業務収益	前第2四半期連結累計期間	1,266	3,517	△111	4,672
	当第2四半期連結累計期間	689	713	△117	1,284
うちその他業務費用	前第2四半期連結累計期間	4,009	0	△0	4,009
	当第2四半期連結累計期間	1,905	30	△0	1,935

(注) 1. 「国内」「海外」の区分に替えて、「国内業務部門」「国際業務部門」で区分しております。

国内業務部門は当社及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当社及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引及び特別国際金融取引勘定等は国際業務部門に含めております。

2. 相殺消去額は、連結会社間の相殺消去額及び国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借利息を計上しております。

3. 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用（前第2四半期連結累計期間73百万円、当第2四半期連結累計期間0百万円）を控除して表示しております。

国内・国際業務部門別役員取引の状況

役員取引等収益は、国内業務部門が278億2百万円、国際業務部門が1億83百万円となり、合計で254億21百万円となりました。

一方、役員取引等費用は、国内業務部門が70億3百万円、国際業務部門が1億71百万円となり、合計で62億59百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役員取引等収益	前第2四半期連結累計期間	29,278	256	△2,926	26,608
	当第2四半期連結累計期間	27,802	183	△2,563	25,421
うち預金・貸出業務	前第2四半期連結累計期間	6,816	—	△10	6,805
	当第2四半期連結累計期間	7,246	—	△14	7,232
うち為替業務	前第2四半期連結累計期間	5,222	166	△80	5,308
	当第2四半期連結累計期間	5,150	148	△66	5,231
うち信託関連業務	前第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
うち証券関連業務	前第2四半期連結累計期間	3,577	7	△284	3,301
	当第2四半期連結累計期間	3,901	6	△296	3,611
うち代理業務	前第2四半期連結累計期間	3,185	—	△0	3,185
	当第2四半期連結累計期間	2,261	—	△0	2,261
うち保護預り・貸金庫業務	前第2四半期連結累計期間	318	—	△0	318
	当第2四半期連結累計期間	312	—	△0	312
うち保証業務	前第2四半期連結累計期間	2,850	31	△716	2,164
	当第2四半期連結累計期間	2,796	14	△699	2,112
役員取引等費用	前第2四半期連結累計期間	7,387	202	△926	6,663
	当第2四半期連結累計期間	7,003	171	△915	6,259
うち為替業務	前第2四半期連結累計期間	1,088	37	△40	1,085
	当第2四半期連結累計期間	1,110	14	△38	1,085

(注) 1. 国内業務部門は当社及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当社及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非
居住者取引及び特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2. 相殺消去額は、連結会社間の相殺消去額を計上しております。

国内・国際業務部門別特定取引の状況

特定取引収益は、国内業務部門で商品有価証券収益に52百万円、特定金融派生商品収益に94百万円、その他の特定取引収益に2百万円、
国際業務部門で商品有価証券収益に13億21百万円計上いたしました。特定取引費用は、ありません。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
特定取引収益	前第2四半期連結累計期間	116	1,079	—	1,195
	当第2四半期連結累計期間	149	1,321	—	1,470
うち商品有価証券収益	前第2四半期連結累計期間	49	1,079	—	1,129
	当第2四半期連結累計期間	52	1,321	—	1,374
うち特定取引有価証券収益	前第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
うち特定金融派生商品収益	前第2四半期連結累計期間	65	—	—	65
	当第2四半期連結累計期間	94	—	—	94
うちその他の特定取引収益	前第2四半期連結累計期間	0	—	—	0
	当第2四半期連結累計期間	2	—	—	2
特定取引費用	前第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
うち商品有価証券費用	前第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
うち特定取引有価証券費用	前第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
うち特定金融派生商品費用	前第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
うちその他の特定取引費用	前第2四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第2四半期連結累計期間	—	—	—	—

(注) 1. 国内業務部門は、当社及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当社及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非
居住者取引及び特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2. 相殺消去額は、連結会社間の相殺消去額を計上しております。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

○預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第2四半期連結会計期間	14,110,344	247,612	△34,664	14,323,292
	当第2四半期連結会計期間	15,377,733	213,469	△32,034	15,559,168
うち流動性預金	前第2四半期連結会計期間	9,834,055	—	△33,565	9,800,489
	当第2四半期連結会計期間	11,203,418	—	△31,095	11,172,323
うち定期性預金	前第2四半期連結会計期間	4,102,408	—	△310	4,102,098
	当第2四半期連結会計期間	4,042,929	—	△310	4,042,619
うちその他	前第2四半期連結会計期間	173,880	247,612	△789	420,704
	当第2四半期連結会計期間	131,384	213,469	△629	344,224
譲渡性預金	前第2四半期連結会計期間	493,780	—	△67,050	426,730
	当第2四半期連結会計期間	362,808	—	△49,050	313,758
総合計	前第2四半期連結会計期間	14,604,124	247,612	△101,714	14,750,022
	当第2四半期連結会計期間	15,740,541	213,469	△81,084	15,872,926

(注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金

3. 国内業務部門は当社及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当社及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引及び特別国際金融取引勘定等は国際業務部門に含めております。

4. 相殺消去額は、連結会社間の相殺消去額を計上しております。

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況

○業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第2四半期連結会計期間		当第2四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	11,076,425	100.00	11,464,617	100.00
製造業	1,176,697	10.62	1,249,639	10.90
農業、林業	32,696	0.30	33,231	0.29
漁業	4,077	0.04	5,238	0.05
鉱業、採石業、砂利採取業	12,922	0.12	12,650	0.11
建設業	320,383	2.89	340,993	2.97
電気・ガス・熱供給・水道業	211,222	1.91	248,819	2.17
情報通信業	47,912	0.43	48,234	0.42
運輸業、郵便業	289,305	2.61	326,243	2.85
卸売業、小売業	1,034,447	9.34	1,024,945	8.94
金融業、保険業	310,634	2.80	307,897	2.68
不動産業、物品賃貸業	1,823,561	16.46	1,807,630	15.77
医療・福祉等サービス業	644,176	5.82	677,056	5.91
国・地方公共団体	1,362,175	12.30	1,419,799	12.38
その他	3,806,212	34.36	3,962,237	34.56
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	11,076,425	—	11,464,617	—

(注) 「国内」とは、当社及び連結子会社であります。

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況
 連結会社のうち、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は、株式会社常陽銀行及び株式会社足利銀行の2行であります。

①信託財産の運用/受入状況(信託財産残高表)

科目	資産			
	前連結会計年度 (2020年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
信託受益権	57	1.42	31	0.69
有形固定資産	2,066	50.69	2,210	48.23
無形固定資産	182	4.47	182	3.98
その他債権	10	0.27	10	0.23
銀行勘定貸	1,573	38.58	1,919	41.89
現金預け金	186	4.57	227	4.97
合計	4,077	100.00	4,582	100.00

科目	負債			
	前連結会計年度 (2020年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
金銭信託	1,600	39.25	1,955	42.67
包括信託	2,476	60.75	2,626	57.33
合計	4,077	100.00	4,582	100.00

(注) 共同信託他社管理財産については、前連結会計年度及び当第2四半期連結会計期間の取扱残高はありません。

②元本補填契約のある信託の運用/受入状況(未残)

科目	前連結会計年度 (2020年3月31日)			当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)		
	金銭信託 (百万円)	貸付信託 (百万円)	合計 (百万円)	金銭信託 (百万円)	貸付信託 (百万円)	合計 (百万円)
銀行勘定貸	1,560	—	1,560	1,906	—	1,906
資産計	1,560	—	1,560	1,906	—	1,906
元本	1,559	—	1,559	1,906	—	1,906
その他	0	—	0	0	—	0
負債計	1,560	—	1,560	1,906	—	1,906

(2) キャッシュ・フローの状況

当社グループの当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況については以下のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、預金や借入金が増加等により、2兆9,665億円の収入(前年同期比2兆6,282億円の収入増)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却や償還等により、1,585億円の収入(前年同期比529億円の収入減)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等を主因に62億円の支出(前年同期比334億円の支出減)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ3兆1,188億円増加となる、5兆355億円となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定、経営方針・経営戦略等、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、重要な変更及び新たに定めた事項はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(自己資本比率等の状況)

(参考)

自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づき、銀行持株会社が銀行持株会社及びその子会社の保有する資産等に照らしこれらの自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(2006年金融庁告示第20号。)に定められた算式に基づき、連結ベースについて算出しております。

なお、当社は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては基礎的内部格付手法を採用し、オペレーショナル・リスク相当額の算出においては粗利益配分手法を採用しております。

連結自己資本比率(国内基準)

(単位：億円、%)

	2020年9月30日
1. 連結自己資本比率 (2/3)	11.10
2. 連結における自己資本の額	7,957
3. リスク・アセットの額	71,662
4. 連結総所要自己資本額	2,866

(資産の査定)

(参考)

資産の査定は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(1998年法律第132号)第6条に基づき、株式会社常陽銀行及び株式会社足利銀行の中間貸借対照表の社債(当該社債を有する金融機関がその元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が金融商品取引法(1948年法律第25号)第2条第3項に規定する有価証券の私募によるものに限る。)、貸出金、外国為替、その他資産中の未収利息及び仮払金、支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに中間貸借対照表に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は貸借契約によるものに限る。)について債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次のとおり区分するものであります。

1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいう。

2. 危険債権

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいう。

3. 要管理債権

要管理債権とは、3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権をいう。

4. 正常債権

正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権をいう。

資産の査定額

債権の区分	株式会社常陽銀行		株式会社足利銀行	
	2019年9月30日	2020年9月30日	2019年9月30日	2020年9月30日
	金額(億円)	金額(億円)	金額(億円)	金額(億円)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	53	55	88	50
危険債権	703	739	581	586
要管理債権	136	130	172	178
正常債権	65,998	68,660	46,436	47,682

(注)上記は自己査定に基づき、与信関連債権の査定結果を記載しております。

なお、金額は単位未満を四捨五入しております。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,000,000,000
計	3,000,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年11月19日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,179,055,218	1,179,055,218	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権であり、権利内容に何ら限定 のない標準となる株式。 単元株式数は100株。
計	1,179,055,218	1,179,055,218	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	—	1,179,055	—	117,495	—	25,276

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。) の総数に対する所有 株式数の割合(%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番1号	107,657	9.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	73,721	6.35
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	46,827	4.03
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 日本生命証券管理部内	34,487	2.97
損害保険ジャパン株式会社	東京都新宿区西新宿一丁目26番1号	28,325	2.44
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	P. O. BOX 351 BOSTON MASSA CHUSETTS 02101 U. S. A.	24,536	2.11
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地七丁目18番24号	21,659	1.86
株式会社日本カストディ銀行(信託口 5)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	21,339	1.83
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	19,948	1.71
株式会社日本カストディ銀行(信託口 9)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	17,965	1.54
計	—	396,468	34.18

(注)1 上記の信託銀行所有株式のうち、当該銀行の信託業務に係る株式数は、次のとおりです。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	73,721千株
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	46,827千株
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	21,339千株
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	17,965千株

2 当社は2020年9月30日現在、自己株式を19,134千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

3 ブラックロック・ジャパン株式会社から、同社他7社を共同保有者として、2017年6月30日付現在の保有株式を記載した2017年7月6日付大量保有報告書が関東財務局長に提出されておりますが、当社としての2020年9月30日現在における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主状況には含めておりません。

なお、当該報告書の主な内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ブラックロック・ジャパン株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番3号	17,147	1.45
ブラックロック・ファンド・マネジャーズ・リミテッド	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー12	1,332	0.11
ブラックロック(ルクセンブルク)エス・エー	ルクセンブルク大公国 L-1855 J.F.ケネディ通り35A	2,871	0.24
ブラックロック・ライフ・リミテッド	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー12	1,495	0.13
ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド	アイルランド共和国 ダブリン インターナショナル・ファイナンシャル・サービス・センター JPモルガン・ハウス	3,836	0.33
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	14,710	1.25
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ・エイ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	15,159	1.29
ブラックロック・インベストメント・マネジメント(ユークー)リミテッド	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー12	2,613	0.22

- 4 野村証券株式会社から、同社他2社を共同保有者として、2020年9月29日付現在の保有株式を記載した2020年10月5日付変更報告書が関東財務局長に提出されておりますが、野村証券株式会社以外は、当社としての2020年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主状況には含めておりません。
なお、当該報告書の主な内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
野村証券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番1号	108,469	9.20
野村ホールディングス株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番1号	1,518	0.13
野村アセットマネジメント株式会社	東京都江東区豊洲二丁目2番1号	41,670	3.53

- 5 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから、同社他3社を共同保有者として、2018年6月25日付現在の保有株式を記載した2018年7月2日付大量保有報告書が関東財務局長に提出されておりますが、株式会社三菱UFJ銀行以外は、当社としての2020年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主状況には含めておりません。
なお、当該報告書の主な内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	22,225	1.89
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	29,377	2.49
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	3,958	0.34
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	3,485	0.30

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 19,134,500	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,158,909,000	11,589,090	同上
単元未満株式	普通株式 1,011,718	—	1単元(100株)未満の普通株式
発行済株式総数	1,179,055,218	—	—
総株主の議決権	—	11,589,090	—

(注) 上記の「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ3,200株及び76株含まれております。また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が32個含まれております。

② 【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社めぶきフィナンシャル グループ	東京都中央区八重洲2丁目7番 2号	19,134,500	—	19,134,500	1.62
計	—	19,134,500	—	19,134,500	1.62

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 当社は、特定事業会社(企業内容等の開示に関する内閣府令第17条の15第2項に規定する事業を行う会社)に該当するため、第2四半期会計期間については、中間連結財務諸表及び中間財務諸表を作成しております。
2. 当社の中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1999年大蔵省令第24号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(1982年大蔵省令第10号)に準拠しております。
3. 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1977年大蔵省令第38号)に基づいて作成しております。
4. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)の中間連結財務諸表及び中間会計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの中間監査を受けております。

1 【中間連結財務諸表】

(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
現金預け金	1,935,324	5,048,569
コールローン及び買入手形	18,754	11,660
買入金銭債権	11,849	7,884
特定取引資産	15,632	13,307
金銭の信託	1	2,001
有価証券	※1, ※7, ※12 4,076,146	※1, ※7, ※12 4,011,610
貸出金	※2, ※3, ※4, ※5, ※6, ※7, ※8 11,342,541	※2, ※3, ※4, ※5, ※6, ※7, ※8 11,464,617
外国為替	※6 16,150	※6 41,521
リース債権及びリース投資資産	67,710	66,956
その他資産	※7 218,875	※7 203,165
有形固定資産	※9, ※10 109,693	※9, ※10 108,328
無形固定資産	19,316	18,309
退職給付に係る資産	17,814	19,135
繰延税金資産	1,920	1,334
支払承諾見返	23,029	23,714
貸倒引当金	△69,658	△74,196
投資損失引当金	△292	△291
資産の部合計	17,804,808	20,967,631
負債の部		
預金	※7 14,756,658	※7 15,559,168
譲渡性預金	283,131	313,758
コールマネー及び売渡手形	110,745	289,503
売現先勘定	※7 129,195	※7 141,270
債券貸借取引受入担保金	※7 215,548	※7 281,413
特定取引負債	1,770	1,610
借入金	※7, ※11 1,252,801	※7, ※11 3,227,532
外国為替	1,941	737
社債	5,000	—
信託勘定借	1,573	1,919
その他負債	115,621	121,493
役員賞与引当金	237	—
退職給付に係る負債	8,724	7,751
役員退職慰労引当金	37	19
睡眠預金払戻損失引当金	2,874	2,717
偶発損失引当金	2,141	1,993
ポイント引当金	452	457
利息返還損失引当金	12	12
特別法上の引当金	2	2
繰延税金負債	1,365	24,960
再評価に係る繰延税金負債	※9 8,680	※9 8,646
負ののれん	1,027	948
支払承諾	23,029	23,714
負債の部合計	16,922,573	20,009,630

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
資本金	117,495	117,495
資本剰余金	148,549	148,531
利益剰余金	547,270	562,476
自己株式	△5,970	△5,785
株主資本合計	807,345	822,717
その他有価証券評価差額金	69,821	129,895
繰延ヘッジ損益	△1,068	△1,259
土地再評価差額金	※9 13,485	※9 13,522
退職給付に係る調整累計額	△7,597	△7,036
その他の包括利益累計額合計	74,641	135,121
新株予約権	248	161
純資産の部合計	882,235	958,001
負債及び純資産の部合計	17,804,808	20,967,631

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月30日)
経常収益	149,288	133,399
資金運用収益	85,540	77,658
(うち貸出金利息)	56,421	54,354
(うち有価証券利息配当金)	28,441	22,693
信託報酬	29	16
役務取引等収益	26,608	25,421
特定取引収益	1,195	1,470
その他業務収益	4,672	1,284
その他経常収益	※1 31,241	※1 27,546
経常費用	117,317	101,755
資金調達費用	8,720	3,769
(うち預金利息)	2,947	1,055
役務取引等費用	6,663	6,259
その他業務費用	4,009	1,935
営業経費	※2 60,378	※2 58,589
その他経常費用	※3 37,545	※3 31,200
経常利益	31,971	31,644
特別利益	27	76
固定資産処分益	27	76
特別損失	142	776
固定資産処分損	103	185
減損損失	※4 38	※4 590
税金等調整前中間純利益	31,855	30,944
法人税、住民税及び事業税	11,182	11,384
法人税等調整額	△1,886	△2,059
法人税等合計	9,295	9,325
中間純利益	22,559	21,619
親会社株主に帰属する中間純利益	22,559	21,619

【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月 30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月 30日)
中間純利益	22,559	21,619
その他の包括利益	17,425	60,443
その他有価証券評価差額金	16,771	60,073
繰延ヘッジ損益	460	△190
退職給付に係る調整額	192	560
中間包括利益	39,985	82,062
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	39,985	82,062

(3) 【中間連結株主資本等変動計算書】

前中間連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	117,495	148,545	523,792	△2,026	787,807
当中間期変動額					
剰余金の配当			△6,451		△6,451
親会社株主に帰属する 中間純利益			22,559		22,559
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		4		55	60
土地再評価差額金の取崩			33		33
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	4	16,141	55	16,202
当中間期末残高	117,495	148,549	539,934	△1,970	804,009

	その他の包括利益累計額					新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	123,042	△267	13,497	△4,765	131,507	233	919,547
当中間期変動額							
剰余金の配当							△6,451
親会社株主に帰属する 中間純利益							22,559
自己株式の取得							△0
自己株式の処分							60
土地再評価差額金の取崩							33
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	16,771	460	△33	192	17,391	15	17,407
当中間期変動額合計	16,771	460	△33	192	17,391	15	33,609
当中間期末残高	139,813	193	13,463	△4,572	148,898	248	953,156

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	117,495	148,549	547,270	△5,970	807,345
当中間期変動額					
剰余金の配当			△6,376		△6,376
親会社株主に帰属する 中間純利益			21,619		21,619
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△18		184	166
土地再評価差額金の取崩			△36		△36
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	△18	15,206	184	15,372
当中間期末残高	117,495	148,531	562,476	△5,785	822,717

	その他の包括利益累計額					新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	69,821	△1,068	13,485	△7,597	74,641	248	882,235
当中間期変動額							
剰余金の配当							△6,376
親会社株主に帰属する 中間純利益							21,619
自己株式の取得							△0
自己株式の処分							166
土地再評価差額金の取崩							△36
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	60,073	△190	36	560	60,480	△86	60,393
当中間期変動額合計	60,073	△190	36	560	60,480	△86	75,765
当中間期末残高	129,895	△1,259	13,522	△7,036	135,121	161	958,001

(4) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	31,855	30,944
減価償却費	4,172	4,824
減損損失	38	590
負ののれん償却額	△79	△79
貸倒引当金の増減(△)	200	4,537
投資損失引当金の増減額(△は減少)	452	△1
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△284	△237
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△1,034	△1,033
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△1,011	△1,640
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△26	△18
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△254	△156
偶発損失引当金の増減(△)	△49	△147
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△20	4
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	△7	△0
資金運用収益	△85,540	△77,658
資金調達費用	8,720	3,769
有価証券関係損益(△)	△1,412	324
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	-	△0
為替差損益(△は益)	9,969	4,581
固定資産処分損益(△は益)	76	109
特定取引資産の純増(△)減	△25	2,325
特定取引負債の純増減(△)	361	△160
貸出金の純増(△)減	46,058	△122,076
預金の純増減(△)	△50,596	802,509
譲渡性預金の純増減(△)	144,571	30,626
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	85,370	1,974,731
預け金(現金同等物を除く)の純増(△)減	16,404	5,618
コールローン等の純増(△)減	7,173	11,058
コールマネー等の純増減(△)	30,113	190,834
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	2,511	65,865
外国為替(資産)の純増(△)減	△2,827	△25,371
外国為替(負債)の純増減(△)	1,480	△1,204
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	△4,426	753
普通社債発行及び償還による増減(△)	-	△5,000
信託勘定借の純増減(△)	629	346
資金運用による収入	87,732	78,698
資金調達による支出	△9,184	△4,992
その他	25,287	952
小計	346,400	2,974,228
法人税等の支払額	△8,115	△7,690
営業活動によるキャッシュ・フロー	338,285	2,966,538
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△403,323	△343,996
有価証券の売却による収入	333,358	158,543
有価証券の償還による収入	262,446	348,885
金銭の信託の増加による支出	-	△2,000
金銭の信託の減少による収入	23,174	-
有形固定資産の取得による支出	△2,060	△1,636
有形固定資産の売却による収入	49	205
無形固定資産の取得による支出	△2,191	△1,314
その他	△9	△146
投資活動によるキャッシュ・フロー	211,443	158,539
財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の償還による支出	△33,297	-
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	55	152
配当金の支払額	△6,451	△6,376
財務活動によるキャッシュ・フロー	△39,693	△6,224
現金及び現金同等物に係る換算差額	△22	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	510,012	3,118,847
現金及び現金同等物の期首残高	1,434,627	1,916,659
現金及び現金同等物の中間期末残高	※1 1,944,640	※1 5,035,507

【注記事項】

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 13社

主要な会社名

株式会社常陽銀行

株式会社足利銀行

なお、常陽ビジネスサービス株式会社は、2020年9月30日付で解散し、現在清算手続中であります。

(2) 非連結子会社 4社

会社名 めぶき地域創生投資事業有限責任組合

いばらき商店街活性化投資事業有限責任組合

つくばエクシード投資事業有限責任組合

あしかが企業育成ファンド三号投資事業有限責任組合

非連結子会社は、その資産、経常収益、中間純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社

該当ありません。

(2) 持分法適用の関連会社

該当ありません。

(3) 持分法非適用の非連結子会社 4社

会社名 めぶき地域創生投資事業有限責任組合

いばらき商店街活性化投資事業有限責任組合

つくばエクシード投資事業有限責任組合

あしかが企業育成ファンド三号投資事業有限責任組合

(4) 持分法非適用の関連会社 6社

会社名 いばらき絆投資事業有限責任組合

いばらき新産業創出ファンド投資事業有限責任組合

いばらき創生ファンド投資事業有限責任組合

株式会社とちぎネットワークパートナーズ

とちぎネットワークファンド投資事業有限責任組合

令和元年台風及び新型コロナウイルス等被害東日本広域復興支援投資事業有限責任組合

持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、中間純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

(1) 連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。

9月末日 13社

(2) それぞれの中間決算日の中間財務諸表により連結しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準は次のとおりであります。

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的（以下、「特定取引目的」という。）の取引については、取引の約定時点を基準とし、中間連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を中間連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。

特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については中間連結決算日の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については中間連結決算日において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当中間連結会計期間中の受払利息等に、有価証券及び金銭債権等については前連結会計年度末と当中間連結会計期間末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当中間連結会計期間末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法は、次のとおりであります。

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については原則として国内株式及び国内投資信託については中間連結決算期末前1ヶ月の市場価格の平均に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、それ以外については中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く)の評価は、時価法により行っております。

(4) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

銀行業を営む連結子会社の有形固定資産は、定額法により償却しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 : 3年~50年

その他 : 3年~20年

その他の連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

② 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当社及び銀行業を営む連結子会社並びにその他の連結子会社で定める利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

(5) 貸倒引当金の計上基準

銀行業を営む連結子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下、「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

貸出条件緩和債権等を有する債務者で与信額が一定額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積ることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、必要に応じてこれに直近算定期間の状況など将来見込みに必要な修正を加えて算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署等が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は33,168百万円（前連結会計年度末は34,329百万円）であります。

その他の連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

(6) 投資損失引当金の計上基準

銀行業を営む一部の連結子会社の投資損失引当金は、投資等について将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。

(7) 役員退職慰労引当金の計上基準

一部の連結子会社の役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当中間連結会計期間末までに発生していると認められる額を計上しております。

(8) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

銀行業を営む連結子会社の睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。

(9) ポイント引当金の計上基準

ポイント引当金は、一部の連結子会社が発行するクレジットカードの利用により付与したポイントが、将来使用された場合の負担に備え、将来利用される見込額を合理的に見積り、必要と認められる額を計上しております。

(10) 利息返還損失引当金の計上基準

一部の連結子会社の利息返還損失引当金は、利息制限法の上限金利を超過する貸付金利息の返還請求に備えるため、過去の返還実績等を勘案した見積返還額を計上しております。

(11) 偶発損失引当金の計上基準

銀行業を営む連結子会社の偶発損失引当金は、信用保証協会保証付き融資の負担金支払いに備えるため、過去の代位弁済の実績率に基づく将来の負担金支払見込額及び他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額をそれぞれ計上しております。

(12) 特別法上の引当金の計上基準

特別法上の引当金は、金融商品取引法第46条の5第1項に定める金融商品取引責任準備金2百万円（前連結会計年度末は2百万円）であり、証券事故による損失に備えるため、証券連結子会社が金融商品取引業等に関する内閣府令第175条の規定に定めるところにより算出した額を計上しております。

(13) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として10年）による定額法により費用処理

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生した翌連結会計年度から費用処理

(14) 繰延資産の処理方法

当社の株式交付費は支出時に全額費用として処理しております。

(15) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

銀行業を営む連結子会社の外貨建資産・負債は、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

当社及びその他の連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの中間決算日の為替相場により換算しております。

(16) リース取引の処理方法

貸主側において、リース取引開始日が2008年4月1日前に開始する連結会計年度に属する所有権移転外ファイナンス・リース取引については、「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号 2011年3月25日）第81項に基づき、同会計基準適用初年度の前連結会計年度末において有形固定資産及び無形固定資産に含めていた適正な帳簿価額（減価償却累計額控除後）をリース投資資産の期首の価額として計上しております。

(17) ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

貸主側において、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(18) 重要なヘッジ会計の方法

① 金利リスク・ヘッジ

銀行業を営む連結子会社の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の残存期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

② 為替変動リスク・ヘッジ

銀行業を営む連結子会社の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 2002年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

③ 株価変動リスク・ヘッジ

銀行業を営む一部の連結子会社のその他有価証券のうち、政策投資目的で保有する株式の相場変動リスクをヘッジするため、株式先渡取引をヘッジ手段として個別ヘッジを行っており、ヘッジの有効性評価については、ヘッジ対象の時価変動等とヘッジ手段の時価変動等との相関関係を検証する方法により行っております。ヘッジ会計の方法は、繰延ヘッジによっております。

なお、銀行業を営む連結子会社の一部の資産・負債については、個別ヘッジとして繰延ヘッジ、あるいは金利スワップの特例処理を行っております。

(19) 負ののれんの償却方法及び償却期間

2010年3月31日以前に発生した負ののれんは、20年間の定額法により償却を行っております。

(20) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち、銀行業を営む連結子会社については現金及び日本銀行への預け金であり、当社及びその他の連結子会社については現金及び預け金(定期預け金を除く)であります。

(21) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間連結会計期間の費用に計上しております。

(22) 連結納税制度の適用

当社を連結納税親会社として、連結納税制度を適用しております。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（2020年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行に合わせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染症の影響が続いておりますが、政府の経済対策にも支えられ徐々に経済活動等は回復するものと見ております。しかしながら、業種によっては売上減少など業績への影響が残るものと想定し、当社グループの貸出金等の信用リスクに一定の影響があるとの仮定を置いております。

こうした仮定のもと、当該影響により予想される損失に備えるため、上記の影響を受けると見込まれる債務者の足許の業績悪化の状況を債務者区分に反映させ、貸倒引当金を計上しております。

当該仮定は不確実であり、新型コロナウイルス感染状況やその経済への影響が変化した場合、損失額が増減する可能性があります。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りに用いた仮定については、前連結会計年度から重要な変更はありません。

(中間連結貸借対照表関係)

※1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
株式	9百万円	9百万円
出資金	3,070百万円	3,040百万円

※2. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
破綻先債権額	2,279百万円	2,197百万円
延滞債権額	138,147百万円	140,901百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(1965年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

※3. 貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
3カ月以上延滞債権額	391百万円	1,606百万円

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

※4. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
貸出条件緩和債権額	27,586百万円	29,183百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

※5. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
合計額	168,405百万円	173,889百万円

なお、上記2. から5. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※6. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
	36,056百万円	24,687百万円

※7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
担保に供している資産		
有価証券	1,666,746百万円	2,104,343百万円
貸出金	119,578 "	2,414,977 "
計	1,786,324 "	4,519,320 "
担保資産に対応する債務		
預金	101,168 "	30,107 "
売現先勘定	129,195 "	141,270 "
債券貸借取引受入担保金	215,548 "	281,413 "
借入金	1,215,433 "	3,191,056 "

上記のほか、為替決済、デリバティブ等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
有価証券	5,470百万円	5,464百万円

また、その他資産には、中央清算機関差入証拠金、金融商品等差入担保金及び公金事務等取扱担保金並びに保証金・敷金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
中央清算機関差入証拠金	94,918百万円	93,562百万円
金融商品等差入担保金	3,737百万円	2,109百万円
公金事務等取扱担保金	2,065百万円	2,063百万円
保証金・敷金	1,984百万円	1,844百万円

※8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
融資未実行残高	2,900,178百万円	3,036,795百万円
うち原契約期間が1年以内のもの (又は任意の時期に無条件で取消可能なもの)	1,983,104百万円	2,138,603百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも銀行業を営む連結子会社及びその他の連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、銀行業を営む連結子会社及びその他の連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられています。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内及び社内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

※9. 土地の再評価に関する法律(1998年3月31日公布 法律第34号)に基づき、銀行業を営む一部の連結子会社の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

1998年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(1998年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税の課税価格計算の方法に基づいて、1画地毎に、財産評価基本通達を基準に奥行価格補正、側方路線影響加算、不整形地補正等を行って算出。

※10. 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
減価償却累計額	125,697百万円	126,143百万円

※11. 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金が含まれております。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
劣後特約付借入金	30,000百万円	30,000百万円

※12. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
	175,576百万円	179,863百万円

13. 銀行業を営む連結子会社の元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
金銭信託	1,559百万円	1,906百万円

(中間連結損益計算書関係)

※1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
株式等売却益	14,105百万円	9,205百万円
償却債権取立益	1,287百万円	1,044百万円

※2. 営業経費には、次のものを含んでおります。

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
給料・手当	26,765百万円	26,189百万円
退職給付費用	1,556百万円	2,028百万円

※3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
貸倒引当金繰入額	5,093百万円	7,959百万円
株式等償却	866百万円	2,730百万円
貸出金償却	5,769百万円	2,113百万円

※4. 「減損損失」は、店舗統廃合等を決定し投資額の回収が見込めなくなったことに伴い、主に栃木・茨城両県内にある遊休資産等について計上しております。

上記減損損失の固定資産の種類ごとの内訳は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
建物	11百万円	305百万円
土地	26百万円	250百万円
動産	1百万円	27百万円
借地権	—百万円	8百万円

当社及び銀行業を営む連結子会社並びにその他の連結子会社の移動資産については、営業用店舗等を基礎とし、キャッシュ・フローの相互補完性に基づいた一定の地域等をグルーピングの単位としております。遊休資産等については、各々独立した単位として取扱っております。また、本部、事務センター、寮、社宅、厚生施設等については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから、共用資産としております。

回収可能価額の算定は、主として正味売却価額によっており、不動産鑑定評価額等から処分費用見込額を控除して算定しております。

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

前中間連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項 (単位:千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当中間連結会計 期間増加株式数	当中間連結会計 期間減少株式数	当中間連結会計 期間末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	1,179,055	—	—	1,179,055	
合計	1,179,055	—	—	1,179,055	
自己株式					
普通株式	5,971	1	164	5,807	(注)
合計	5,971	1	164	5,807	

(注) 自己株式数の増加及び減少は次のとおりです。

単元未満株の買取請求による増加1千株。

単元未満株の買増請求による減少1千株、ストック・オプションの権利行使による減少163千株。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)			当中間連結会計期間末残高(百万円)	摘要
			当連結会計年度期首	当中間連結会計期間			
				増加	減少		
当社	ストック・オプションとしての新株予約権		—			248	
合計			—			248	

3. 配当に関する事項

(1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月13日 取締役会	普通株式	6,451	5.5	2019年3月31日	2019年6月4日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年11月11日 取締役会	普通株式	6,452	利益剰余金	5.5	2019年9月30日	2019年12月3日

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

	当連結会計年度期首株式数	当中間連結会計期間増加株式数	当中間連結会計期間減少株式数	当中間連結会計期間末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	1,179,055	—	—	1,179,055	
合計	1,179,055	—	—	1,179,055	
自己株式					
普通株式	19,745	0	611	19,134	(注)
合計	19,745	0	611	19,134	

(注) 自己株式数の増加及び減少は次のとおりです。

単元未満株の買取請求による増加0千株。

単元未満株の買増請求による減少0千株、譲渡制限付株式としての自己株式の処分による減少312千株、ストック・オプションの権利行使による減少298千株。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)			当中間連結会計期間末残高(百万円)	摘要
			当連結会計年度期首	当中間連結会計期間			
				増加	減少		
当社	ストック・オプションとしての新株予約権		—			161	
合計			—			161	

3. 配当に関する事項

(1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年5月13日 取締役会	普通株式	6,376	5.5	2020年3月31日	2020年6月2日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年11月9日 取締役会	普通株式	6,379	利益剰余金	5.5	2020年9月30日	2020年12月2日

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金預け金勘定	1,962,485百万円	5,048,569百万円
銀行業を営む連結子会社における日本銀行以外の 他の金融機関への預け金	△17,844 "	△13,062 "
現金及び現金同等物	1,944,640 "	5,035,507 "

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借手側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
1年内	145	145
1年超	141	109
合計	287	255

(貸手側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
1年内	2	2
1年超	2	1
合計	5	3

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません((注2)参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

前連結会計年度(2020年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1) 現金預け金	1,935,324	1,935,324	—
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	164,851	166,028	1,177
その他有価証券	3,881,842	3,881,842	—
(3) 貸出金	11,342,541		
貸倒引当金(*1)	△64,324		
	11,278,216	11,390,121	111,904
資産計	17,260,234	17,373,317	113,082
(1) 預金	14,756,658	14,757,116	△457
(2) 譲渡性預金	283,131	283,162	△30
(3) 債券貸借取引受入担保金	215,548	215,548	—
(4) 借入金	1,252,801	1,252,888	△87
負債計	16,508,139	16,508,715	△575
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	2,423	2,423	—
ヘッジ会計が適用されているもの	665	665	—
デリバティブ取引計	3,088	3,088	—

(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(*2) 特定取引資産・負債及びその他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

	中間連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1) 現金預け金	5,048,569	5,048,569	—
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	151,434	152,683	1,249
その他有価証券	3,829,963	3,829,963	—
(3) 貸出金	11,464,617		
貸倒引当金(*1)	△68,556		
	11,396,061	11,503,704	107,643
資産計	20,426,028	20,534,920	108,892
(1) 預金	15,559,168	15,559,693	△524
(2) 譲渡性預金	313,758	313,782	△24
(3) 債券貸借取引受入担保金	281,413	281,413	—
(4) 借入金	3,227,532	3,227,596	△63
(5) コールマネー及び売渡手形	289,503	289,503	—
負債計	19,671,376	19,671,989	△613
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	2,353	2,353	—
ヘッジ会計が適用されているもの	1,079	1,079	—
デリバティブ取引計	3,433	3,433	—

(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(*2) 特定取引資産・負債及びその他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金預け金

時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格等によっております。

自行保証付私募債は、ディスカウント・キャッシュフロー法により算出された現在価値を時価としております。その割引率は、格付別の倒産確率及び個別債権毎の保全率に基づいて算出しております。

保有する全ての証券化商品は、市場価格を時価とみなすことが相当と判断し、市場価格をもって時価としております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「(有価証券関係)」に記載しております。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率、又は格付別の倒産確率及び個別債権毎の保全率及び回収率に基づいて算出した利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間連結決算日(連結決算日)における中間連結貸借対照表(連結貸借対照表)上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

負 債

(1) 預金、及び(2) 譲渡性預金

要求払預金については、中間連結決算日(連結決算日)に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金及び譲渡性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。

(3) 債券貸借取引受入担保金、及び(5) コールマネー及び売渡手形

これらは、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(4) 借入金

借入期間に基づく区分ごとに、新規に借入を行った場合に想定される適用金利で割り引いた現在価値を算定しております。

なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、「(デリバティブ取引関係)」に記載しております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間連結貸借対照表(連結貸借対照表)計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(2) その他有価証券」には含まれておりません。

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
① 非上場株式(*1)(*2)	4,126	4,121
② 組合出資金(*3)	24,427	25,213
③ 信託受益権(*1)	898	878
合 計	29,452	30,213

(*1)非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(*2)前連結会計年度において、非上場株式について192百万円減損処理を行っております。

当中間連結会計期間において、非上場株式について1百万円減損処理を行っております。

(*3)組合出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしていません。

(有価証券関係)

※1. 中間連結貸借対照表(連結貸借対照表)の「有価証券」のほか「買入金銭債権」中の信託受益権が含まれております。

※2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、中間財務諸表における注記事項として記載しております。

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	債券	157,378	158,630	1,251
	国債	77,871	78,111	240
	地方債	200	200	0
	社債	79,307	80,318	1,011
	その他	—	—	—
	外国債券	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	157,378	158,630	1,251
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	債券	7,472	7,398	△73
	国債	—	—	—
	地方債	299	299	△0
	社債	7,172	7,098	△73
	その他	—	—	—
	外国債券	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	7,472	7,398	△73
合計		164,851	166,028	1,177

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

	種類	中間連結貸借対照表 計上額(百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
時価が中間連結貸借対照表計上額を超えるもの	債券	142,660	144,019	1,359
	国債	59,353	59,657	303
	地方債	300	300	0
	社債	83,006	84,061	1,055
	その他	—	—	—
	外国債券	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	142,660	144,019	1,359
時価が中間連結貸借対照表計上額を超えないもの	債券	8,774	8,664	△109
	国債	—	—	—
	地方債	299	299	△0
	社債	8,474	8,364	△109
	その他	—	—	—
	外国債券	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	8,774	8,664	△109
合計		151,434	152,683	1,249

2. その他有価証券

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	186,311	87,012	99,299
	債券	1,588,352	1,576,333	12,019
	国債	355,452	351,530	3,921
	地方債	663,285	659,669	3,616
	社債	569,614	565,133	4,481
	その他	892,774	841,057	51,717
	外国債券	606,666	574,027	32,639
	その他	286,107	267,030	19,077
	小計	2,667,438	2,504,403	163,035
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	39,746	52,118	△12,372
	債券	606,240	609,040	△2,799
	国債	151,794	153,123	△1,328
	地方債	280,438	280,697	△258
	社債	174,007	175,219	△1,212
	その他	568,797	617,487	△48,690
	外国債券	225,026	233,330	△8,304
	その他	343,770	384,156	△40,386
	小計	1,214,783	1,278,646	△63,862
合計	3,882,222	3,783,049	99,173	

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

	種類	中間連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	215,696	90,673	125,022
	債券	1,515,944	1,505,495	10,449
	国債	224,278	221,441	2,836
	地方債	770,801	767,163	3,637
	社債	520,865	516,890	3,975
	その他	1,118,929	1,034,246	84,682
	外国債券	746,484	692,105	54,378
	その他	372,445	342,141	30,303
	小計	2,850,570	2,630,415	220,154
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	32,383	44,168	△11,784
	債券	553,664	557,152	△3,488
	国債	155,524	157,794	△2,270
	地方債	213,824	213,939	△115
	社債	184,315	185,418	△1,102
	その他	393,449	412,861	△19,412
	外国債券	131,155	132,926	△1,771
	その他	262,293	279,934	△17,640
	小計	979,497	1,014,182	△34,684
合計	3,830,067	3,644,597	185,470	

3. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当中間連結会計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下、「減損処理」という。)することとしております。

前連結会計年度における減損処理額は1,573百万円(うち、株式1,573百万円)であります。

当中間連結会計期間における減損処理額は2,729百万円(うち、株式2,729百万円)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号)の趣旨に基づき、当中間連結会計期間末(連結会計年度末)における時価が取得原価に比べ30%以上下落した場合等としております。

(金銭の信託関係)

1. 運用目的の金銭の信託

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	連結会計年度の損益に含まれた評価差額 (百万円)
運用目的の金銭の信託	1	—

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

	中間連結貸借対照表計上額 (百万円)	当中間連結会計期間の損益に含まれた評価差額 (百万円)
運用目的の金銭の信託	2,001	0

2. 満期保有目的の金銭の信託

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

該当事項はありません。

3. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

該当事項はありません。

(その他有価証券評価差額金)

中間連結貸借対照表(連結貸借対照表)に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

	金額(百万円)
評価差額	99,391
その他有価証券	99,391
その他の金銭の信託	—
(△)繰延税金負債	29,569
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	69,821
(△)非支配株主持分相当額	—
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	—
その他有価証券評価差額金	69,821

(注) 評価差額には、組合等の構成資産であるその他有価証券に係る評価差額218百万円(益)を含めております。

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

	金額(百万円)
評価差額	185,565
その他有価証券	185,565
その他の金銭の信託	—
(△)繰延税金負債	55,670
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	129,895
(△)非支配株主持分相当額	—
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	—
その他有価証券評価差額金	129,895

(注) 評価差額には、組合等の構成資産であるその他有価証券に係る評価差額95百万円(益)を含めております。

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間連結決算日(連結決算日)における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

区分	種類	契約額等(百万円)	契約額等のうち 1年超のもの(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	金利先物				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	金利オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	金利先渡契約				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	148,971	137,184	4,262	4,262
	受取変動・支払固定	148,971	137,184	△2,390	△2,390
	受取変動・支払変動	—	—	—	—
	金利オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	キャップ				
	売建	1,073	656	△0	8
	買建	1,073	656	0	△5
スワップション					
売建	15,690	15,690	△243	△131	
買建	15,690	15,690	243	243	
その他					
売建	—	—	—	—	
買建	—	—	—	—	
合計				1,872	1,987

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

区分	種類	契約額等(百万円)	契約額等のうち 1年超のもの(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	金利先物				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	金利オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	金利先渡契約				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	150,583	141,261	4,093	4,093
	受取変動・支払固定	150,583	141,261	△2,223	△2,223
	受取変動・支払変動	—	—	—	—
	金利オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	キャップ				
	売建	691	622	△0	7
	買建	691	622	0	△4
	スワップション				
	売建	17,500	17,500	△229	△101
買建	17,500	17,500	229	229	
その他					
売建	—	—	—	—	
買建	—	—	—	—	
合計				1,870	2,000

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

区分	種類	契約額等(百万円)	契約額等のうち 1年超のもの(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	通貨オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	通貨スワップ	216,463	163,777	274	274
	為替予約				
	売建	96,442	4,400	△1,084	△1,084
	買建	96,282	4,129	1,334	1,334
	通貨オプション				
	売建	121,434	81,589	△3,235	269
	買建	121,424	81,585	3,241	1,926
	その他				
売建	—	—	—	—	
買建	—	—	—	—	
合計				530	2,720

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

区分	種類	契約額等(百万円)	契約額等のうち 1年超のもの(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	通貨オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	通貨スワップ	201,153	155,461	245	245
	為替予約				
	売建	58,089	6,679	123	123
	買建	58,762	6,534	111	111
	通貨オプション				
	売建	117,253	77,173	△2,991	374
	買建	117,245	77,171	2,996	1,791
	その他				
売建	—	—	—	—	
買建	—	—	—	—	
合計		—	—	485	2,646

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定
割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

前連結会計年度(2020年3月31日現在)

区分	種類	契約額等(百万円)	契約額等のうち 1年超のもの(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	債券先物				
	売建	1,546	—	21	21
	買建	—	—	—	—
	債券先物オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	債券店頭オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	その他				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
合計		—	—	21	21

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定
取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、オプション価格計算モデル等により算定しております。

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

区分	種類	契約額等(百万円)	契約額等のうち 1年超のもの(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	債券先物				
	売建	911	—	△1	△1
	買建	—	—	—	—
	債券先物オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	債券店頭オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	その他				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
合計		—	—	△1	△1

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定
取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、オプション価格計算モデル等により算定しております。

- (5) 商品関連取引
前連結会計年度(2020年3月31日現在)
該当事項はありません。
当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)
該当事項はありません。

- (6) クレジット・デリバティブ取引
前連結会計年度(2020年3月31日現在)
該当事項はありません。
当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)
該当事項はありません。

- (7) その他
前連結会計年度(2020年3月31日現在)

区分	種類	契約額等(百万円)	契約額等のうち 1年超のもの(百万円)	時価(百万円) (注)	評価損益(百万円)
店頭	地震デリバティブ 売建	5,500	—	△95	—
	買建	5,500	—	95	—
	合計	—	—	—	—

(注) 公正な評価額を算定することが極めて困難と認められるため、取得価額をもって記載しております。

当中間連結会計期間(2020年9月30日現在)

区分	種類	契約額等(百万円)	契約額等のうち 1年超のもの(百万円)	時価(百万円) (注)	評価損益(百万円)
店頭	地震デリバティブ 売建	5,500	—	△95	—
	買建	5,500	—	95	—
	合計	—	—	—	—

(注) 公正な評価額を算定することが極めて困難と認められるため、取得価額をもって記載しております。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業経費	75百万円	一百万円

2. スtock・オプションの内容

前中間連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

	株式会社めぶきフィナンシャルグループ 第19回新株予約権	株式会社めぶきフィナンシャルグループ 第20回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社、株式会社常陽銀行及び株式会社足利銀行 の取締役(監査等委員及び社外取締役を除く) 23名	当社、株式会社常陽銀行及び株式会社足利銀行 の執行役員29名
株式の種類別のストック・オプション の付与数(注1)	普通株式 201,104株	普通株式 193,295株
付与日	2019年8月20日	2019年8月20日
権利確定条件	権利確定条件は付されていない	権利確定条件は付されていない
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはない	対象勤務期間の定めはない
権利行使期間	2019年8月21日から2049年8月20日	2019年8月21日から2049年8月20日
権利行使価格(注2)	1円	1円
付与日における公正な評価単価(注2)	179円	206円

(注) 1 株式数に換算して記載しております。
2 1株当たりに換算して記載しております。

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、銀行業務を中心とした総合金融サービスを提供しております。また、当社の取締役会や経営会議は、グループにおける経営資源の配分を決定し、業績を評価しております。

なお、当社グループの報告セグメントは銀行業務のみであります。銀行業務以外の事業については重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

【関連情報】

前中間連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券 投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	56,421	46,302	46,564	149,288

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当社グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券 投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	54,354	32,583	46,461	133,399

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当社グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当社グループが営む銀行業務以外の事業については重要性が乏しいことから、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当社グループが営む銀行業務以外の事業については重要性が乏しいことから、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
1株当たり純資産額	760円78銭	825円77銭

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部の合計額	百万円	882,235	958,001
純資産の部の合計額から控除する金額	百万円	248	161
(うち新株予約権)	百万円	248	161
普通株式に係る中間期末(期末)の純資産額	百万円	881,986	957,839
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末(期末)の普通株式の数	千株	1,159,309	1,159,920

2. 1株当たり中間純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり中間純利益及び算定上の基礎

		前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
(1) 1株当たり中間純利益	円	19.22	18.64
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する中間純利益	百万円	22,559	21,619
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益	百万円	22,559	21,619
普通株式の期中平均株式数	千株	1,173,170	1,159,596
(2) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益	円	19.21	18.63
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する中間純利益調整額	百万円	—	—
普通株式増加数	千株	646	708
うち新株予約権	千株	646	708
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		(注)	—

(注) めぶきフィナンシャルグループ2019年満期ユーロ米ドル建取得条項付転換社債型新株予約権付社債は、2019年4月24日に全て償還されております。

(重要な後発事象)

当社は2020年11月9日付取締役会決議において、2021年4月1日付で当社の完全子会社である株式会社常陽銀行が保有する株式会社常陽クレジット株式と、株式会社足利銀行が保有する株式会社あしぎんカード株式を現物配当により取得すること、及び、株式会社常陽クレジットを吸収合併存続会社、株式会社あしぎんカードを吸収合併消滅会社として合併するとともに、存続会社の商号を「株式会社めぶきカード」に変更することを決定しました。これにより、株式会社めぶきカードは当社が直接保有する完全子会社となります。

2 【その他】

該当事項はありません。

3 【中間財務諸表】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当中間会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,664	7,998
その他	4,600	6,858
流動資産合計	13,265	14,857
固定資産		
無形固定資産		
商標権	32	30
ソフトウェア	2	4
無形固定資産合計	35	34
投資その他の資産		
関係会社株式	727,270	727,270
繰延税金資産	38	36
投資その他の資産合計	727,308	727,307
固定資産合計	727,344	727,341
資産合計	740,609	742,199
負債の部		
流動負債		
未払費用	147	148
未払法人税等	3,329	4,982
未払消費税等	20	8
役員賞与引当金	3	—
その他	69	94
流動負債合計	3,571	5,234
固定負債		
長期借入金	※1 15,000	※1 15,000
関係会社長期借入金	60,000	60,000
株主、役員又は従業員からの長期借入金	※1 15,000	※1 15,000
その他	125	52
固定負債合計	90,125	90,052
負債合計	93,696	95,286
純資産の部		
株主資本		
資本金	117,495	117,495
資本剰余金		
資本準備金	25,276	25,276
その他資本剰余金	451,629	451,593
資本剰余金合計	476,905	476,869
利益剰余金		
利益準備金	4,097	4,097
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	54,685	54,605
利益剰余金合計	58,783	58,703
自己株式	△6,519	△6,317
株主資本合計	646,664	646,750
新株予約権	248	161
純資産合計	646,913	646,912
負債純資産合計	740,609	742,199

(2) 【中間損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月 30日)	当中間会計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月 30日)
営業収益		
関係会社受取配当金	6,950	6,900
関係会社受入手数料	612	612
営業収益合計	7,562	7,512
営業費用		
販売費及び一般管理費	※1 912	※1 968
営業費用合計	912	968
営業利益	6,649	6,543
営業外収益	5	1
営業外費用	※2 497	※2 473
経常利益	6,158	6,070
税引前中間純利益	6,158	6,070
法人税、住民税及び事業税	△182	△227
法人税等調整額	△3	1
法人税等合計	△185	△226
中間純利益	6,343	6,296

(3) 【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	117,495	25,276	451,640	476,916
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
自己株式の取得				
自己株式の処分			△10	△10
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)				
当中間期変動額合計	—	—	△10	△10
当中間期末残高	117,495	25,276	451,629	476,905

	株主資本					新株予約権	純資産合計
	利益剰余金			自己株式	株主資本合計		
	利益準備金	その他利益剰余金					
		繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	4,097	54,802	58,900	△2,590	650,721	233	650,954
当中間期変動額							
剰余金の配当		△6,451	△6,451		△6,451		△6,451
中間純利益		6,343	6,343		6,343		6,343
自己株式の取得				△0	△0		△0
自己株式の処分				71	60		60
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)						15	15
当中間期変動額合計	—	△107	△107	71	△47	15	△31
当中間期末残高	4,097	54,694	58,792	△2,519	650,673	248	650,922

当中間会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	117,495	25,276	451,629	476,905
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
自己株式の取得				
自己株式の処分			△35	△35
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)				
当中間期変動額合計	—	—	△35	△35
当中間期末残高	117,495	25,276	451,593	476,869

	株主資本					新株予約権	純資産合計
	利益剰余金			自己株式	株主資本合計		
	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	4,097	54,685	58,783	△6,519	646,664	248	646,913
当中間期変動額							
剰余金の配当		△6,376	△6,376		△6,376		△6,376
中間純利益		6,296	6,296		6,296		6,296
自己株式の取得				△0	△0		△0
自己株式の処分				201	166		166
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)						△86	△86
当中間期変動額合計	—	△79	△79	201	86	△86	△0
当中間期末残高	4,097	54,605	58,703	△6,317	646,750	161	646,912

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法により行っております。

2. 固定資産の減価償却の方法

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

3. 繰延資産の処理方法

株式交付費は、支出時に全額費用として処理しております。

4. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

5. 連結納税制度の適用

当社を連結納税親会社として、連結納税制度を適用しております。

(追加情報)

連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（2020年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行に合わせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(中間貸借対照表関係)

※1. 他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金であります。

(中間損益計算書関係)

※1. 減価償却実施額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
無形固定資産	3百万円	3百万円

※2. 営業外費用のうち主要なものは次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
支払利息	473百万円	473百万円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。子会社株式及び関連会社株式の中間貸借対照表(貸借対照表)計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当中間会計期間 (2020年9月30日)
子会社株式	727,270	727,270
関連会社株式	—	—
合計	727,270	727,270

(重要な後発事象)

連結財務諸表の「注記事項（重要な後発事象）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

4 【その他】

中間配当

2020年11月9日開催の取締役会において、第5期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額	6,379百万円
1株当たりの中間配当金	5円50銭

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

2020年11月18日

株式会社 めぶきフィナンシャルグループ
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小 暮 和 敏	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	木 村 充 男	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山 口 圭 介	Ⓜ

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社めぶきフィナンシャルグループの2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書、中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社めぶきフィナンシャルグループ及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間連結財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の中間監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で中間監査意見に対して責任を負う。
監査人は、監査等委員会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。
監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2020年11月18日

株式会社めぶきフィナンシャルグループ
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ 東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小 暮 和 敏	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	木 村 充 男	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山 口 圭 介	Ⓜ

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社めぶきフィナンシャルグループの2020年4月1日から2021年3月31日までの第5期事業年度の中間会計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社めぶきフィナンシャルグループの2020年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に

関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年11月19日

【会社名】 株式会社めぶきフィナンシャルグループ

【英訳名】 Mebuki Financial Group, Inc.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 笹島 律夫

【最高財務責任者の役職氏名】 _____

【本店の所在の場所】 東京都中央区八重洲二丁目7番2号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長笹島律夫は、当社の第5期第2四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。